

2020年度

L 世界史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は8ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

人間は古来から、人間の身体に関して様々な見方を採用してきた。

旧石器時代の東地中海とその周辺地域において、女性の身体は、胸部や臀部などが太く、肩幅が狭く描かれることがおこった。¹⁾一方でキクラデス諸島では、それとは異なる身体的特徴を強調した女性像がみられた。²⁾エーゲ文明期のクレタ島の遺跡では運動や労働をすすめる男性身体が、ミケーネ文明の時代には戦士としての男性身体が、それぞれ描かれる機会が増えた。³⁾『イリアス』では、アガ멤ノンら英雄たちの身体的特徴への事細かな言及がみられる。⁴⁾

中世のヨーロッパでは、チョーサーの『パースの女房の物語』にみられるように、身体のあり方は道徳心の表出と⁵⁾関連づけて理解された。また、化粧の是非が問題となったときにも、例えば、トマス＝アクィナスは、キリスト教信仰との関係から、信心深い女性であれば許されると論じた。⁶⁾ちなみに中世初期には、クレオパトラが化粧に通じた人物だと主張されることもあった。⁷⁾

近世イタリアのある著述家は、イタリア人男性の身体のあり方を肯定する一方、アラブ人やシチリア人の身体には否定的な評価をくだした。同様に、18世紀、あるフランス人医師は、⁸⁾理想の女性の髪色はブロンドか黒髪だとして、テューダー朝最後の君主（イ）の赤い髪色を否定的に論評した。また、モンゴル系やトルコ系の人々らに対しても、目の大きさや鼻の形などを一方的に評した。⁹⁾

19世紀になると、アフリカなどの植民地支配が進展するとともに「人種」間の身体観をめぐる議論がわきあがった。¹⁰⁾例えば、1879年の南アフリカでの戦争を描いたイギリスの新聞では、肉体的に屈強なイギリス人男性が現地のか弱い女性を守るという構図がたびたび描かれた。このような身体観は、1859年『種の起源』刊行後、ダーウィンの議論に仮託して繰り返された。1894年ドレフュス事件に際しては、¹¹⁾ドレフュスにかけられたドイツへの情報漏洩という嫌疑が、ユダヤ人男性の精神的、¹²⁾身体的な弱さを説く言説と結びつけて論じられた。¹³⁾

20世紀初頭以降、西洋諸国では、スポーツ・運動が男性身体のあり方と関連して論じられた。武力を伴う中米諸国への干渉政策である（ロ）外交で知られる大統領のセオドア＝ローズヴェルトは、男性身体の質的向上という観点からスポーツ・運動を支持した。また、1920年代以降になると、ファシズム期のイタリアやドイツでは、¹⁴⁾出産奨励政策がすすめられ、女性の瘦身が批判の対象ともなった。

10. この地域では、19世紀後半に西洋列強諸国による分割支配がすすめられた。宗主国と植民地・保護領の組み合わせとして正しくないものを、次の a～f から2つ選び、その記号を左欄に1つ、右欄に1つマークせよ。順序は問わない。
- | | | | | | |
|---------|---|-------|----------|---|--------|
| a. イギリス | — | ウガンダ | b. イタリア | — | チュニジア |
| c. ドイツ | — | カメルーン | d. フランス | — | マダガスカル |
| e. ベルギー | — | リベリア | f. ポルトガル | — | アンゴラ |
11. この書物を代表例として、19世紀のヨーロッパでは、科学技術全般に様々な発明や発見がみられた。人物と主たる業績の組み合わせとして正しいものを、次の a～f から2つ選び、その記号を左欄に1つ、右欄に1つマークせよ。順序は問わない。
- | | | |
|----------|---|------------|
| a. ジーメンス | — | 動力飛行機での初飛行 |
| b. ノーベル | — | ダイナマイトの発明 |
| c. マルコーニ | — | 蓄音機の発明 |
| d. メンデル | — | 遺伝の法則の発見 |
| e. モールス | — | 電話の発明 |
| f. レントゲン | — | ラジウムの発見 |
12. この事件に際して、ドレフュスを擁護し世論に再審を訴えた、『居酒屋』などの著作がある作家の名をしるせ。
13. この人々に対して、19世紀後半から20世紀初めのロシアや東欧諸国で大規模な襲撃が起こった。この襲撃を指す、ロシア語で組織的虐殺、略奪を意味する言葉をしるせ。
14. この国の政府は、1929年の条約でローマ教皇庁と和解した。この条約の名をしるせ。

II. 次の文を読み、文中の下線部 1)～12) にそれぞれ対応する下記の設問 1～12 に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

宇宙の起源を探る試みは、ヨーロッパでは古くからなされてきた。ある神学者は『旧約聖書』の記述に基づき、神による天地創造を紀元前4000年ころと推定した。他方、¹⁾ プトレマイオスは、地球は宇宙の中心に位置しており、他の天体は地球の周りを回っていると考えた。この説はその後、²⁾ コペルニクスによって否定された。

1920年代に、宇宙は膨張しており、遙か過去に宇宙は一個の原子よりも小さい空間に凝縮されていたという考えが示された。³⁾ 20世紀半ばになるとその証拠が集められ、宇宙にも歴史があることが明らかになった。⁴⁾ 宇宙は今から138億年前に誕生したというのである。⁵⁾

その説によれば、宇宙誕生の2億年後に最初の恒星が誕生し、10億年以内に超新星の爆発が起きた。今から46億年ほど前になると太陽が形成され、⁶⁾ 地球が誕生した。地球には海ができ、35億年ほど前に最初の生物が誕生した。

⁷⁾ 初期人類が誕生するのは、今から700万～500万年前のことである。私たち現生人類（ホモ・サピエンス）の祖先が出現したのは、今から20万年ほど前のことである。そこから現生人類の歴史がようやく始まる。

現生人類の歴史は、生業を軸にすれば、以下のように見ることができかもしれない。初期人類以降、今から8000年くらい前までの「狩猟採集の時代」、その後⁸⁾ 18世紀半ばころまでの、人口増加を背景として⁹⁾ 都市や¹⁰⁾ 国家が出現し、地域ごとに異なる歴史が現れた「農耕の時代」、それ以降、産業革命と工業化を経て現在に至る「現代」である。このような¹¹⁾ 現代世界では、¹²⁾ 冷戦終結後にさまざまな変化が起きている。

【以下余白】